利尻研究 (25): 29-32, March 2006

道北におけるウミツバメ科の記録

佐藤雅彦 [1)]・小野宏治 [2)]・大林利弘 [3)]

[1)] 〒 097-0311 北海道利尻郡利尻町仙法志字本町　利尻町立博物館
[2)] 〒 078-4116 北海道苫前郡羽幌町北６条１丁目　環境省自然環境局羽幌自然保護官事務所
[3)] 〒 097-8558 北海道稚内市末広４丁目 2-27　宗谷支庁生活環境課

Observational Records and Specimens of The Family Hydrobatidae from Northern Hokkaido

Masahiko Satô[1)], Koji Ono[2)] and Toshihiro Oobayashi[3)]

[1)]Rishiri Town Museum, Senhoshi, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0311 Japan
[2)]Haboro Ranger Office for Nature Conservation, Kita 6-1, Haboro, Tomamae, 078-4116 Japan
[3)]Environment and Lifestyle Division, Souya Subprefectural Office, Hokkaido Government, 4-2-27, Suehiro, Wakkanai, Hokkaido, 097-8558 Japan

Abstract. Observational records and specimens of the family Hydrobatidae from northern Hokkaido are reviewed. Contrary to many records of fork-tailed storm-petrel, there are few records of Leach's strom-petrel. We got the first specimen of Leach's strom-petrel from this area in October 2005.

はじめに

国内におけるウミツバメ科は２属７種の記録がある．本科に属する鳥は島での繁殖および海上生活に特化するため沿岸に近寄ることが少なく，航路での観察が主体となる一方，保護記録などでは海から離れた場所での報告も少なくはない．北海道ではハイイロウミツバメ *Oceanodroma furcata*，コシジロウミツバメ *O. leucorhoa* およびクロコシジロウミツバメ *O. castro* の３種が報告されているが（日本鳥類目録編集委員会，2000；藤巻，2000），道北地域におけるこれら２種の記録についてはこれまで断片的な記録のみで，保護記録などがまとめられることはなかった（藤巻，2000）．

筆者らは 2005 年 10 月に稚内において保護されたウミツバメ科の１個体がコシジロウミツバメであることを確認する機会に恵まれた．観察記録以外で本種の確認がなされたのは筆者らの知る限り，道北地域では今回が初めてのことと思われる．そこでこの保護記録を報告すると共に，筆者らが得ることができた道北地域におけるウミツバメ科２種の観察および保護記録をここにまとめることとした．

以下の方々からは各地における貴重な観察記録や情報を快くご提供いただくことができた．心から感謝の意を表したい．疋田英子さん（稚内市），小杉和樹さん（利尻町），村山良子さん（枝幸町），宮本誠一郎さん（礼文町），富士元寿彦さん（幌延町）．

なお，本文中に使われた略号は以下のとおり．TL: 全長（以下の長さは全て mm），BW: 体重（g），Tai: 尾長，EC: 露出嘴峯長，MWL: 最大翼長，Tar: ふ蹠長．* は文献記録によるものを示す．標本については RTMB は利尻町立博物館鳥類標本番号を示し，利尻町立博物館に保管されている．

ハイイロウミツバメ (Fig. 1)

本種はコシジロウミツバメに比べると，利礼航路での観察も多く，また保護個体などの記録も多い．一般的に冬の報告が多いが，6-7 月にも観察されている．

【利礼航路上（稚内→鴛泊）】1992.vii.30，小杉和樹，11（出航後 45 分程して 3 羽，その後 30 分程の間に 8 羽観察．曇りであったが波は穏やかであった．）；1993.vi.6，疋田英子・小田島富男，個体数不明；2000.xi.26，佐藤雅彦，1；2001.xii.20，佐藤雅彦，2；*2002.xii.12，杉村直樹，2（杉村，2004）．

【利礼航路上（鴛泊→稚内）】*2000.vii.13，杉村直樹，2（杉村，2004）

【礼文島船泊沖】*2000.xi.26，保護者不明（二次保護者：杉村直樹），1（コウミスズメ 25 羽，フルマカモメ 1 羽とともに漁船で保護後，放鳥される．杉村（2001）に詳細が紹介されている．）

【礼文町】香深字奮部，1997.xii.6，川村，1；船泊字五番地，1999.xii.3，佐々木，1（同月 5 日に放鳥）；香深字香深井，2003.ix.14，老人ホーム礼宝園職員保護，1（翌日死亡）．

【利尻町】沓形字蘭泊，1998.xii.19，佐藤雅彦・坂本里恵，1（交通事故死したものを拾得．RTMB190.）；利尻島内（保護地不明），1999.xii.10，保護者不明（二次保護者：小杉和樹），1（仙法志漁港で放鳥）；沓形，2001.iii.25，津田商店（二次保護者：小杉和樹），1（店舗にまぎれこんでいたところを保護後，一晩安静保温．翌日，蘭泊漁港にて放鳥．）．

【稚内市】稚内市恵比寿 3 丁目，2000.i.10，（二次保護者：杉村直樹），1（左翼が骨折している個体が保護され，その後死亡．BW42.4・Tai95.1・EC14.85・Tar26.85・RTMB228）；稚内市ナイポポチ，2000.ix.28，上野民子，1（パチンコ店前でうずくまっているところを保護，当日 18 時 30 分にはまなす海岸で放鳥）；稚内市字大岬，1995.vi.19，鳴海秀春，1（大海崎漁港でうずくまっているところを保護，同日 17 時に天北埠頭から海に放鳥）；稚内市港 5 丁目，1997.ii.28，

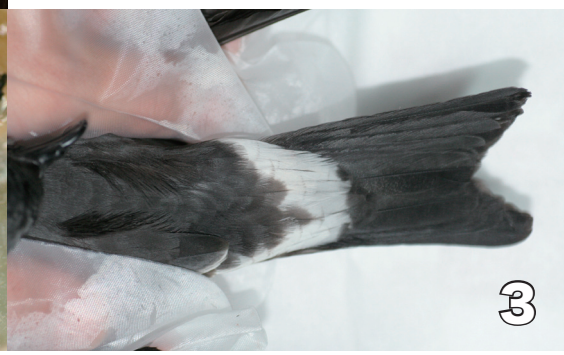

図 1．保護されたハイイロウミツバメ（利尻島沓形，2001 年，撮影：小杉和樹氏）．図 2．保護された稚内産のコシジロウミツバメ（RTMB338）．図 3．同じ個体（RTMB338）の腰部．

表1．コシジロウミツバメとクロコシジロウミツバメの計測値と標本個体の比較（単位は mm）

	コシジロウミツバメ	クロコシジロウミツバメ	RTMB338
尾羽の差	16-23	06-12	16
ふ蹠長	24.6（22.9-26.6）	21.9（20.7-23.4）	24.3
露出嘴峰	16.8（16.0-18.2）	15.1（14.2-16.0）	15.7

長谷，1（鉄工場裏手でトラックの下で飛べずにいたところを保護，3月3日に天北埠頭で放鳥）；稚内市中央4丁目，1998.xi.24，市場職員（二次保護者：稚内市役所，三次保護者：宗谷支庁），1（元気なので放鳥）；稚内沖の船上で保護，1998.xi.16，船員により保護，1（弱っていたのか船の上で保護，夕方元気になり，潮見の浜で放鳥）

【浜頓別町】浜頓別町字頓別，1970.vii.28，（二次保護者：小西 敢），1（頓別の海岸で衰弱しているところを水鳥観察館へ持ち込まれ，まもなく死亡．特に外傷はなく，油で汚れていることもなかった．胸部等を触診するが，痩せており餌が取れないで衰弱したと推測）；*1975.xi.7（藤巻，2000）．

【苫前町】苫前町と留萌の間の沖合，2000.xii.27，大坂仁司，1（26日夕方よりエビ漁に出たところ，真っ暗になってから，船内にハイイロウミツバメが飛び込んできた．簡単に捕らえられたので具合が悪いのかと思い，そのまま保護，翌27日に北海道海鳥センターに持ち込まれる．同日，放鳥を試みるが羽の撥水性が悪くて浮かぶことができず再収容．オキアミをチューブで強制給餌するものの，すぐに吐いてしまう．28日に死亡．）

コシジロウミツバメ（Fig. 2-3）

本種はクロコシジロウミツバメに酷似し，野外での識別は困難とされているが，識別点として，1）白色の腰の中央部に灰色の線があること，2）尾の切れ込みが深いこと，などがあげられている（高野，1984；真木・大西，2000）．稚内で2005年10月に保護された個体（RTMB338）は腰の灰色の線が不明瞭であったため，尾羽の最長と最短の差（本個体で16mm），ふ蹠長，露出嘴峰長の各計測値を両種の既存の計測値と比較し（清棲，1978；佐藤，1997），同定を行った（表1）．その結果，露出嘴峰長（15.7mm）のみクロコシジロウミツバメの計測値の範囲に含まれていたが，両種の計測値の境界範囲に近い値であったこと，他の2つの計測値が明らかにコシジロウミツバメの値であったことから，本種であると結論を得た．

杉村（2004）における1998年から5年間に渡る利礼航路における鳥類観察において，「種を特定できなかったウミツバメ科の個体」として，1998年6月に2回，合計3羽がハイイロウミツバメとともに報告されている．これらのうち2羽はコシジロウミツバメではないかと本文中に記述されているが，確実な同定記録ではないため，今回の確認記録からはのぞくこととした．

なお，藤巻（2000）のクロコシジロウミツバメの道内における記録では，根室で保護個体に標識をつけ放鳥した記録があり，迷鳥とされている．

【利礼航路上（鴛泊→稚内）】1979.vii.29 稚内→鴛泊 フェリー航路上にて 合計3羽（柴原・榊田，1980）；1991.vii.9，小杉和樹，1（ノシャップ岬の手前あたりで1羽観察．曇り，海は穏やか．）；1991.xi.12，小杉和樹，≒20（出航して30分程で20羽前後の群れを観察．曇り時々雪，波は3m．）．

【稚内市】2005.x.20，鈴木，1（岸壁にうずくまっていたところを稚内市民に保護される．歩行や飛翔に傷害があり放鳥が難しい状態であったので宗谷支庁地域政策部環境生活課自然環境係を経

由して利尻町立博物館に搬送される．羽毛の撥水性は右半身で若干悪いように感じられたが，油汚染などの影響は感じられなかった．湿度に注意しながら園芸用のミズゴケマットを敷いたダンボール箱に収容し，飼育を開始した．搬送後はイカやオキアミなどを自ら食べることはなかったため，強制給餌でフィッシュミールを与えたが，体重は 36.5g から減少し続け，10 日後の 10 月 31 日に死亡．死亡時の体重は 25.2g であった．右の翼が不自然に下垂していたが，解剖では上腕・前腕ともに骨折などは確認できなかった．右脚脛骨中央に骨折の痕と思われる骨の肥大が見られたが，これが歩行を困難にしていた原因と思われた．TL18.6・BW24.2・Tai83.0・EC15.7・MWL156.0・Tar24.3．RTMB338.）

参考文献

藤巻裕蔵，2000．北海道鳥類目録　改訂 2 版．帯広畜産大学野生動物管理学研究室．83 pp.

真木広造・大西敏一，2000．日本の野鳥 590．平凡社．655 pp.

日本鳥類目録編集委員会，2000．日本鳥類目録．改訂第 6 版 . 日本鳥学会，京都．345 pp.

佐藤文男，1997. クロコシジロウミツバメ . 日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料（IV）．562-567 pp.（社）日本水産資源保護協会，東京 .

柴原克明・榊田一也，1980．[III] 鳥類 . 早稲田大学生物同好会（編）, 早稲田生物 ,（22）:41-52.

清棲幸保，1978. 増補改訂版　日本鳥類大図鑑 III．961-964 pp.　講談社，東京 .

杉村直樹，2001. 最北の傷病鳥 !? ～海鳥たちの受難の 2 日間～ . メーヴェ，10: 12-13.

杉村直樹，2004. 利礼航路で観察された鳥類および海棲哺乳類 . 利尻研究，（23）: 93-128.

高野伸二，1984. 野鳥識別ハンドブック　改訂版 .（財）日本野鳥の会．334pp.